

松江市史講座「市民と語る松江の自然」

『松江市史通史編第一巻「自然環境・原始古代」』が三月末に刊行された。この中で私たちは第一章から第三章の自然環境について担当した。すでに読まれた方もおられると思うが、ここで各章の内容と執筆するうえで配慮したこと等を簡単にまとめておく。

第一章の「地形・地質」では松江の大地の特徴と生い立ちについて述べた。とくに歴史や文化・産業の自然基盤となった平野と宍道湖・中海については、ほかの事項よりも多くのページを割いて、地球環境の中長期の変動と関連づけながら解説した。

第二章では、私たちになじみ深い季節現象を通して、松江の「気象・気候」の特徴が理解できるようにまとめた。また、具体的な数値データに加え、天気図や模式図も示すことによって読者の理解を助けるとともに、気象現象の背景や原因も分かり易く解説した。

第三章の「生物」では、松江の自然を特徴付ける三つの地域、すなわち①私たちの生活を育む里山、②「水の都松江」とそこに見られる生き物たち、③魅力いっぱいの島根半島と日本海の自然、に分けて、それぞれの地域で特徴的あるいは注目すべき動植物にスポットを当てて述べた。

いずれの章でも、自然の現象や事柄を羅列的に述べていく従来型の記述方法とはらずに、なるべく市民に身近で、しかも今後刊行される各巻で述べられる松江の歴史との関わりを意識しつつ、自然の成り立ちと概要が把握できるように書いたつもりである。また、多様で豊かな松江の自然と如何に共生し、街づくりにそれを活かし、未来に伝えていくか、ということをも市民の皆さんに考えていただくきっかけにしたい、との思いも込められている。

こうした私たちの意図を読者の皆さんにどのくらい届けることができたか、気になるところでもある。また、限られたページ数の中では十分に説明することができなかった事象や、省かざるを得なかった事柄もある。

そこで、通史編第一巻が刊行された機会に、市民の皆さんと松江の自然について語り合うのも良いのではないかと、ということで今回の市史講座シンポジウムが企画された。

シンポジウムでは、趣旨説明の後、各章の「読みどころ」、松江の自然の「見どころ」などをかい摘んで各章の執筆代表者が解説する。本書では書ききれなかったこと、補足すべき事項、その後解った新しいこと、なども適宜紹介する予定である。

後半は「文化・歴史と松江の自然」をテーマにしたパネルディスカッション。例えば、風土記の記述と当時の自然、松江の自然と城下町の成立・暮らしとの関わり、地球温暖化と近未来の松江、などが話題として考えられ、これらを共通テーマとして地形・地質、気象・気候、動物・植物の観点からディスカッションする。会場の皆さんからの発言も期待している。

最後に「自然を活かす街づくり」をテーマに皆さんとともに意見交換し、産業振興や防災、観光なども含めて、これからの市民生活と自然との関わりを考えていきたい。また、それを考える上でどのようなデータが不足しているか、ということについてもご意見を伺いたい。

『史料編「自然環境」』は平成三一年度に刊行が予定されており、部会ではすでにその準備に入っている。今回のシンポジウムで市民の皆さんから伺ったご意見を、ぜひ『史料編』に活かしたいと考えている。

(自然環境部会・高安克己・田坂郁夫・澤田順弘・佐藤仁志)